

第2回 宇部市渡辺翁記念会館保存活用検討委員会 議事録

日 時 令和8年5月26日 15:30～17:30

場 所 市役所5階 第2委員会室

出席者

【委員】

清水 里司 原田 正彦 高瀬 太 脇 和也 渡邊 祐二

磯田 智沙恵 白石 光芳 内田 康 福田 空 長谷川 耕二

【宇部市】

観光スポーツ文化部 部長 青山 佳代 理事 白井 幸雄 次長 明德 義和

文化振興課 課長 徳田 泉 副課長 越智 英和

文化振興係 係長 中谷 尚子 係員 伊藤 瑞奈

【宇部市教育委員会】

学びの森くすのき・地域文化交流課 副課長 石川 健

《第2回会議》

1 アンケートの速報値報告

事務局より説明

（委員長）渡辺翁記念会館が村野藤吾の作品であることの認知度が、予想よりも低いため驚いた。

2 宇部市渡辺翁記念会館の活用方法について

委員が事前に提出した、活用方法をもとに検討

	活用方法	意見
建物及び周 辺の整備	<u>ハード</u> ①公園一体型の景観ビューポイント整備 ②座席の交換と互い違い（千鳥）配置、 座席番号の分かりやすい付け替え ③ステージ袖の拡充 ④ステージの客席側拡大（可動席の導	<u>ハード</u> ・⑪渡辺翁記念会館と文化会館を車いす で行き来できないため、改善が必要

	入) ⑤左右の反響板を吊り下げ式へ改修 ⑥階段の改修 ⑦ひな壇の新調 ⑧リハーサル室・練習室の増設・拡充 ⑨楽屋の拡充、畳の撤去 ⑩女性用トイレの拡充 ⑪バリアフリーによる誰もが享受できる鑑賞環境の整備 ⑫「村野藤吾アーカイブセンター」の設置 <u>ソフト</u> ①市民が自由に使える椅子・テーブルの設置 ②地下空間を練習室に転換	
イベント等	<u>館周辺</u> ①前庭を野外ステージとして活用 ②周辺駐車場・公園スペースを活用したイベント ③プロジェクションマッピング ④夜間の常設ライトアップ、建築照明を活かしたライトアップ、季節ごとの光の演出 ⑤鑑賞会 ⑥キッチンカーを伴う夜間イベント、ナイトマーケット ⑦ナイト散策や周辺回遊イベント ⑧文化会館や国際ホテルの機能を俯瞰して、エリア全体で活用 <u>ロビーの活用</u> ①マルシェ、バー、カフェ、ブックカフェの定期開催 ②絵画・写真等の展覧会	<u>館周辺</u> ・駐車場や公園の改修は、記念会館ほどの制約がないため、プロジェクションマッピングなど若い世代の意見で活用し、若い人が集まる場所にできる。 ・①③夜間の活用や、建物と前庭と公園を一つの連続した空間として捉えた総合的な活用など、新しい利用価値がある ・③建物（ハード）とイベント（ソフト）の価値が融合し、新しい価値が生まれた事例がある。 建物特有の制約をアイデアと工夫で乗り越え、この場所で体験する価値を創出することが重要。 市外の観光や文化資源を見て、広い視野で宇部市だけの価値を持たせるべき。 <u>ロビーの活用</u> ・ロビーの優れた音響を活かす ・反射する建築材が多く、講演では言葉が聞き取りにくいことがあるため、工夫

③建築・音楽・彫刻に関する小展示 ④学生作品の展示、予約不要のロビーコンサート ⑤出演者公募型のロビーコンサート開催 ⑥演劇・身体表現・音楽など多様なアートの活用※記念室を含めて ⑦ヨガ、ストレッチ、各種楽器教室の開催 ⑧邦楽・神楽のワークショップ ⑨産業観光、記念式典、レセプション会場 <u>ステージ関連</u> ①各種コンクール、学校音楽祭 ②大規模オーケストラ、オペラ ③バレエ、演劇等の開催・誘致 <u>観光・MICE（コンベンション等）</u> ①コンベンション活用（学会・企業総会・表彰式） ②国際ホテルと連携した懇親会・パーティの開催 ③技術シンポジウム・セミナー、企業交流会場としての利用 <u>社会包括</u> ①子どもミュージカル等の参加型芸術プログラム ②すべての人々が共に創造し、共に鑑賞できる劇場にする <u>村野建築</u> ①専門家や建築家による建築ガイドツアーの実施 ②全国の村野作品を巡る VR 体験や、	が必要。 ・合唱では声が響きすぎるが、ハーモニカでは良い響きになる。 ・大理石の柱が視界を遮る。 ・既存の建具を活用して空間を分けることができる。 <u>村野建築</u> ・①民間や市民の方がするガイドも必要 ・③京都工芸繊維大学美術工芸資料館には村野藤吾建築に関する資料が多くあ
---	---

	ディテール（部材）に注目した展示ギャラリー ③図面・模型等の公開 ④渡辺翁・俵田翁・村野藤吾・長谷川堯らの業績顕彰と宇部の文化資源の常設展（地下に常設） ⑤「村野建築めぐり×近代化遺産」観光拠点の整備 <u>その他</u> ①バックヤードツアー ②舞台裏見学やワークショップを含む「オープンデイズ」 ③建築好きが集まるカフェ、建築書籍セレクトショップ、オリジナルグッズ販売 ④青空美術館 ⑤一人芝居、身体表現の場 ⑥全国の学生を対象とした「保存活用アイデアコンペ」の毎年開催 ⑦エンタメ活用、地域大型イベント（成人式）の実施 ⑧触れると反応する足元インタラクション ⑨アニメ・映像作品の上映、AR 連携	るため、連携できる。 <u>その他</u> ・⑥若い世代の柔軟な視点を取り入れ、施設の活用案やデザインを募る。審査員は建築の専門家や市内企業など。
場所の提供	<u>全体</u> ①フォトスポット ②学生が気軽に立ち寄れる居場所 <u>ロビー</u> ①フリースペース、公演のない日や昼間の無償開放（無料ロビーコンサートの実施）	
運用方針・施設コンセプト	①宇部市民向けの利用料減免制度の検討 ②利用しやすい料金設定 ③音響・照明スタッフが配置される体	

	制の維持 ④会館利用の申請可能期間の見直し (1時間前まで申請可能、当日空いていれば申請可能など) ⑤日限定の社会実験から始め、段階的に常設観光資産化教育連携) ⑥音響特性を活かしたクラシック・室内楽等の「特化型ホール」としてのブランド化	
連携	①大学と連携した「芸術・建築の授業の場」の提供 ②UBE 現代日本彫刻展(旧 UBE ビエンナーレ)と連携した彫刻・建築の展示やトークイベント ③外部資料館と連携した村野藤吾設計資料等の展示拡充 ④全国の村野建築管理者・自治体・大学との連携強化、「村野建築サミット」の開催 ⑤障害者芸術支援センターとの連携	
保存	①コンサート機能を廃止し、建造当時の姿へ復元 ②維持費を抑え、歴史展示やロビーコンサート等に限定して活用 ※ホール機能を廃止・移行する場合、多目的アリーナの新設を検討。	・①②重要文化財としての改修の難しさ、改修に係る費用や改修中の休館から、費用対効果と工期の妥当性が懸念事項。 ・保存と活用は相反する面があるが、次世代に継承するためには両立を模索すべき。 ・改修期間中の活用を検討すべき。熊本城の再建が観光資源になるなど、改修中だからできる利用方法がある。

■委員会全体への意見

(委員) アンケートの結果からも、渡辺翁記念会館を若い世代に知ってもらうことが必要。

渡辺翁記念会館を、若い人が集まる場所にし、親子と一緒に歴史を学ぶことを、繋げて考えるべき。

- (委員) 子どもたちへの教育を通じて、渡辺翁記念会館を負の遺産としてでなく、宇部市の宝として繋ぐことが重要。
- (委員) 大集会堂は、車いす利用者への座席が少ない。障害がある方にとって、鑑賞しにくい環境なので、あらゆる人が利用しやすいホールを検討すべき。
- イベント時の駐車場不足が深刻なので、渡辺翁記念会館周辺で駐車場を確保することも検討すべき。
- (委員) 運動できる広場や勉強できるカフェのような空間があると、市民が日常的に利用するのは。また、広場から建物のロビーへの動線を繋げることで、市民が建物の中にも入るのでは。
- (委員) 建物自体の価値を高めることが重要。経済的な価値だけでなく、渡辺翁記念会館や公園に人が集まることが、重要文化財の価値を高めていることになる。
- 行政は価値を高めることを目指し、民間は価値が高まった建物をどう活用するか、宇部市と市民のために何ができるか、両輪で考えると良い。
- (委員) 渡辺翁記念会館を自由に利用できるようにすると、管理上の問題がでてくる。建物に入る扉を常にかけておくなら、工夫が必要。

3 次回委員会の検討事項確認

事務局から説明